



PORSCHE



911タルガ4S ヘリテー ジ デザイン エディション

プレスキット

目次

ポルシェが最初のヘリテージ デザイン モデルを発表

伝統に敬意を表して：911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディション 4

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージデザインエディションの詳細

50年代と60年代初頭のスピリットを備えた最先端の911 7

ポルシェ911タルガ4Sヘリテージデザインエディションの詳細

チェリーレッドとコードロイの復活 11

ポルシェ911タルガ4Sヘリテージデザインエディションの詳細

伝説のフックスホイール 13

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションの詳細

必要性が美徳になるとき：ポルシェタルガの車両コンセプト 15

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションの詳細

ポルシェ クレストはどのようにして誕生したか 17

現代スポーツカーの歴史の一片

ポルシェヘリテージデザイン戦略：

クラシックなデザインエレメントを再解釈 20

燃料消費量およびCO₂排出量

911タルガ4S:燃料消費量 – 市街地15.0–13.3リッター/100km、郊外8.0–7.6リッター/100km、
複合10.3–9.9リッター/100km; CO₂排出量(複合)235 – 227g/km

全ての情報はEUモデルを参照しています。

燃料消費量とCO₂排出量の値は、新しい「乗用車などの国際調和排出ガス・燃費試験法」(WLTP)に従って決定されました。当面は、引き続きここから算出されたNEDC値が明記されなければなりません。これらの値は、これまで使用されてきたNEDC測定手順に従って決定された値と比較することはできません。乗用車の新しい公式燃料消費量と公式CO₂排出量に関する詳細は、全ての販売店およびDeutsche Automobil Treuhand GmbH(DAT)から無料で入手することができる「新しい乗用車の燃料消費量、CO₂排出量、および電力消費量に関するガイドライン」をご覧ください。

ポルシェが最初のヘリテージ デザイン モデルを発表

伝統に敬意を表して：911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディション

ポルシェAG(本社:ドイツ、シュトゥットガルト 社長:オリバー・ブルーム)は、ヘリテージデザイン戦略の4つのコレクターズモデルの最初のモデルとして、「911タルガ4S ヘリテージデザイン エディション」を発表します。これは、1950年代と1960年代初頭のデザインエレメントを備えた最新の911です。歴史的なエクステリアとインテリアのデザインエレメントが、ポルシェエクスクルーシブマニュファクチャーのリミテッドエディションとして再解釈され、最新テクノロジーと組み合わせられました。社内コードネームと同じ992台に限定されるこのエディションは現在注文可能で、2020年秋からディーラーで販売される予定です。スペシャルエディションの導入とともに、選択されたインテリアエレメントは、全ての911現行モデルのヘリテージデザインパッケージとして利用可能になります。ポルシェデザインは、新しいリミテッドエディションモデル購入者専用の限定高級クロノグラフも発表しています。

「私達はヘリテージ デザイン モデルによって、お客様とファンの皆様の1950年代、60年代、70年代、80年代の記憶を呼び起こします。これらのエレメントの現代への転換において、ポルシェほどふさわしいブランドは他にありません。私達はこのような方法でお客様のご要望にお応えします。さらに、このエクスクルーシブなスペシャルエディションとともに、当社の製品戦略において『ライフスタイル』を表現する新しい製品ラインも確立します」と、ポルシェAG取締役会会長のオリバー・ブルームは述べています。

専用塗装のチェリーメタリックと他の4種類のエクステリアカラー、およびゴールドのロゴが1950年代スタイルの本格的な外観を生み出します。911タルガ4S ヘリテージ デザインエディションのエクステリアは、独特な歴史的テーマのホワイトのカラーリングを備えます。フロントフェンダーの槍型グラフィックのモータースポーツエレメントは特に印象的です。「槍」は、ポルシェ モータースポーツの黎明期を想起させます。さらなるハイライトが、ラゲッジコンパートメントグリルのポルシェヘリテージバッジです。このデザインは、100,000kmを走行したときに授与されたポルシェ356のバッジを連想させます。現代的な工夫を加えた過去の品質のしるしが、4台全てのポルシェ ヘリテージ デザイン モデルのリアを美しく飾ります。ボンネット、ステアリングホイール、ホイールセンターキャップ、および車両キーに冠された1963年のポルシェクレストは過去と現在をさらに深く結びつけます。また、この歴史的なモチーフはヘッドレス

トとキーポーチにもエンボス加工されています。この特徴は標準装備の20/21インチ カレラ エクスクルーシブデザイン ホイール、そしてクラシックな外観のブラック塗装ブレーキキャリパーによって、さらに強調されています。

インテリアも過去への敬意を表します。エクスクルーシブなツートンレザーインテリアは、ボルドーレッドレザーとアタカマベージュOLEAクラブレザーの組み合わせ、またはブラックレザーとアタカマベージュOLEAクラブレザーの組み合わせです。シートとドアトリムへのコーデュロイの使用は、ポルシェ356に使用されていた素材への回帰と、50年代の時代精神と流行の復活を意味します。グリーンで照明されるクラシックな外観のレブカウンターとストップウォッチは、マイクロファイバーファブリックによるパンチングルーフライナーや広範なエクスクルーシブマニュファクチャーレザートリムとともに、コンセプトのエモーショナルな特質を強調します。ダッシュボードトリムパネルの金属製エンブレムにはリミテッドエディション番号が記載されています。

最初のヘリテージ デザイン モデルは、わずか数日前に導入された新しい992世代の911タルガをベースにして、最新テクノロジーのシャシー、アシスタンスシステム、およびインフォテインメントを備えます。最高出力331kW(450PS)の水平対向ツインターボエンジンを搭載し、8速デュアルクラッチトランスミッション仕様の911タルガ(ローンチコントロール使用時)の0-100 km/h加速タイムは3.6秒、最高速度は304km/hをマークします。

ポルシェヘリテージデザイン戦略： クラシックなデザインエレメントの再解釈

ヘリテージ デザイン モデルは、ポルシェ製品戦略において特にエモーショナルなコンセプトを表現する「ライフスタイル」を強調し、「スタイル・ポルシェ」デザイン部門とポルシェエクスクルーシブマニュファクチャーが、50年代から80年代のアイコン的な911モデルとインテリアを再解釈して当時の特徴を蘇らせています。2019年にデビューした911スピードスターのヘリテージデザインパッケージは、この戦略の初期プレビューとして提供されました。ポルシェは、今後、リミテッドシリーズの4つのスペシャルリミテッドエディションモデルを順次生産します。

クロノグラフ 911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディション： 車にマッチする腕時計

ポルシェデザインは、新しい車のオーナー専用的高级腕時計としてクロノグラフ 911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションを作成しています。この機械式腕時計は、すっきりとしたエレガントなデザインで、車と同様に992モデルに限定されます。デザイナーは、細部に渡って、伝説のポルシェ356とアイコニックなポルシェ911タルガからインスピレーションを得ています。たとえば、ホワイトの秒針と「フォスファラスグリーン」のリングを備えた文字盤のデザインは、車のスピードメータとレブカウンターをベースにしています。インデックスはポルシェ特有のフォントでデザインされており、ストラップはポルシェ車の純正インテリアレザーを使用しました。911のエンボス加工は、アイコニックなスポーツカーへの敬意を示します。

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージデザインエディションの詳細

50年代と60年代初頭のスピリットを備えた最先端の911

911タルガ4S ヘリテージデザインエディションは、極上の素材、細部までこだわったクラフトマンシップ、50年代と60年代初頭の歴史的なデザインエレメントを組み合わせたユニークな一台で、コレクターとデザインを重視するファンをターゲットとしています。

ポルシェエクスクルーシブマニュファクチャーにおける特別仕様車の責任者、ボリス・アーペンブリックはこう言います。「将来的には、ポルシェブランドのライフスタイルとしての性格をさらに強く打ち出すことが重要となります。ヘリテージデザインモデルは、その位置づけと時代を超えたクールなたたずまいから、技術革新に力点を置く現代と未来のハイブリッドカーや電気自動車を意図的に補完するものとなっています。」また、ポルシェのインテリア デザイン スタイルの責任者、イヴォ・ファン・フルテンは次のようにつけ加えます。「ポルシェは創業時からデザインとスタイリングの点でベンチマークを築いてきました。各時代の車両は、現在ではスタイル上の憧れの的となっています。私たちは、こうした憧れを復活させて、電動化の時代にもポルシェは自らのルーツに忠実であり続けていることを証明しています」。

このポルシェエクスクルーシブマニュファクチャー初のヘリテージデザインモデルは、992世代に導入された新しい911タルガ4Sをベースとしており、最新のシャシー、アシストシステム、インフォテイメントテクノロジーを採用しています。搭載されるのは331 kW (450 PS) のツインターボエンジンです。このハイテクボクサーエンジンと8速デュアルクラッチトランスミッションの組み合わせにより、911タルガ4Sの最高速度は304 km/hを超え、0-100 km/h加速は3.6秒を切ります(ローンチコントロール使用時)。

ポルシェではいつものように、標準装備内容は広範囲にわたります。また、911モデルレンジの多くのオプションも利用可能です。たとえば、スポーツエグゾーストシステム(シルバーまたはブラックのテールパイプ)や、ブレーキキャリパーがブラック(ハイグロス)塗装となるポルシェ セラミックコンポジット ブレーキ(PCCB)、リアアクスルステアリング、ポルシェ ダイナミックシャシー コントロールシステム(PDCC)、スポーツデザイン パッケージ、Burmester®ハイエンドサラウンドサウンドシステムなどです。

911タルガ4S ヘリテージデザインエディションはすでに注文を開始しており、2020年秋には欧州の販売店に並ぶ予定です。このエディションは、社内でのモデルシリーズの呼称を踏まえ992台が限定生産されます。

エクステリア：専用ボディカラーと「槍」のモータースポーツグラフィック

911シリーズ専用のチェリーメタリックのボディカラーは、やや茶色がかった色あいで50年代のスタイルを現代的に解釈しています。また、このスペシャルモデルは、2つのソリッドカラー（ブラックとガーズレッド）、1つのメタリックカラー（GTシルバーメタリック）、1つのスペシャルカラー（クレヨン）の中から選ぶこともできます。さらに、最大限個性的にエクステリアをデザインしたいと考える顧客のために、ご要望に応じて選び抜かれた個別のカラーもご用意しております。

印象的なデザインエレメントのひとつとなっているのは、フロントウイングの「槍」のモータースポーツグラフィックで、これは槍の形をした高品質なホワイトの装飾です。この「槍」はポルシェのモータースポーツの初期の頃を髣髴とさせます。もともと、衝突後に痕跡を隠すためにレースカーに塗装されていましたが、その後、この槍は一種の「戦闘時の装飾」として使用されるようになり、顧客がカスタマイズするときは最初に用いるデザインエレメントのひとつとなりました。この槍は、このスペシャルモデルのサイドに施される歴史あるデザインのモータースポーツグラフィックとして、2019年の911スピードスターヘリテージデザイン パッケージを高いレベルで認識できるよう意図的に施されたものです。このスポーティな外観を補強するために、ご要望に応じて0～99のレースナンバーを描くこともできます。

リアとタルガバーにはゴールドカラーのロゴ、またホイールセンターキャップとボンネットには歴史的なポルシェクレストがあしらわれ、全体のデザインを締めくくっています。911タルガ4S ヘリテージデザインエディションには、20インチまたは21インチのブラックハイグロス（またはオプションでプラチナサテングロス）の911カレラ エクスクルーシブ デザイン ホイールと、クラシックな外観のブラック塗装のプレーキキャリアが装着されます。その他のデザイン上の特徴としては、ラゲッジコンパートメントグリルのポルシェ ヘリテージのバッジや、シルバーのスポーツテールパイプがあります。

インテリア：コードュロイの復活

エクステリアの特別なデザインは、インテリアにも反映されています。車に乗り込まずとも、すでに“911 Targa 4S Heritage Design Edition”という文字の記されたブラッシュ仕上げアルミニウムのパネルがこのクルマのエクスクルーシブ性を物語っています。ヘリテージデザインのフロアマットも、これにマッチしたディテールとなっています。

ボルドーレッドのツートンレザーマテリアルと、アタカマベージュOLEAクラブレザーは、このエディションだけのためにデザインされました。また、どちらかという控えめなボディカラーにマッチするよう、ブラックとアタカマベージュのツートンレザーマテリアルを選ぶこともできます。すでにポルシェ356でも使われていた生地であるコードュロイが復活し、50年代のファッションスタイルがよみがえっています。このソフトな畝のある生地は、シートセンターパネルとドアパネルで使用されています。「昔のカラーおよび装備カード、博物館にある車両、該当する時代のデザインエレメント。これら全てを、過去のデザイン言語を解釈しなおすためのインスピレーションとして活用しました」とファン・フルテンは説明します。ルーフライニング、Aピラー、Bピラーには、アタカマベージュのパーフォレーション加工済みアルカンターラが用いられており、これがインテリアの全体的な外観を締めくくっています。

2つの高解像度7インチディスプレイを用いた現代的なメーターパネルは、多くの点で歴史的なつながりを生み出しています。アナログ式のレブカウンターにはクラシックなポインターが備わります。エンジンを始動させると、針と数字の色がホワイトからグリーンに変化します。同じグリーンのスケールの線も、過去を連想させるもので、これはポルシェ356に由来します。メーターパネルの上に設けられた標準装備のスポーツクロノパッケージの時計の数字もグリーンです。

歴史的なポルシェクレストはインテリアにも反映されています。このクレストは、収納ボックスカバーにエンボス加工された“Porsche Exclusive Manufaktur”のロゴと相まって、ヘッドレストとステアリングホイールの比類ないクラフトマンシップを際立たせます。グローブボックスの上の装飾パネルには、個別のリミテッドエディションのバッジが手作業で取り付けられています。ボディカラー同色塗装仕上げの車両キーとツートンレザーでできたキーポーチにも歴史的なポルシェクレストが備わり、ディテールへのこだわりのさらなる例となっています。レザー製のドキュメントフォルダーと専用設計されたインドアカーカバーは、真のコレクターズアイテムであろうとする車両の意図を強調しています。

ヘリテージデザイン パッケージ：全ての911のための選び抜かれたインテリアエレメント

911タルガ4S ヘリテージデザインエディションの導入に伴い、現行の911の全モデルで、選び抜かれたインテリアエレメントが装備可能となります。

ピュア ヘリテージデザイン パッケージに含まれるもの：

- ブラック/アタカマベージュのOLEAクラブレザーまたはブラック/ブラックのトゥーンレザーマテリアル
- コーデュロイのシートセンターパネルとドアパネル
- ヘリテージデザインのメーターパネル
- ヘリテージデザイン スポーツクロノ クロック(オプションのスポーツクロノ パッケージとの組み合わせ)
- ヘッドレストにエンボス加工された歴史的なポルシェクレスト
- 収納ボックスカバーにエンボス加工された“Porsche Exclusive Manufaktur”のロゴ
- アタカマベージュのシートベルト(ブラック/アタカマベージュレザーのインテリアとの組み合わせ)
- シルバーの911バッジ
- エンボス加工された911のロゴが備わったアルミニウムのドアシル

ポルシェ911タルガ4Sヘリテージデザインエディションの詳細

チェリーレッドとコーデュロイの復活

時代を超えたカラーと素材:ポルシェ911タルガ4Sヘリテージエディションのチェリーメタリックのエクステリアは、1950年代のスタイルを呼び起こします。当時、ダークレッドはとても人気の高いボディカラーでした。ポルシェ356のエクステリアカラーでは、パシャレッド(カラーコードロイター523、524)、ルビーレッド(ロイター702)、およびポリアンサレッド(ロイター604)と呼ばれていました。初期の911モデルでは、バーガンディレッドとして知られていました。1950年のポルシェの印刷物(ドライバーズマニュアルと書物)も、ダークレッドとホワイトで制作されていました。ワークショップとポルシェ販売店に掲げられたロゴも、濃厚なレッドカラーでした。コーデュロイファブリックと同じく、レッドの色合いも現代に適合するように修正されました。強烈で高品質なチェリーメタリックは、シルバーのタルガバーとゴールドカラーのロゴとの組み合わせで調和のとれた印象を生み出します。

「槍」とゼッケンナンバー：モータースポーツグラフィックスの上質な装い

もうひとつの印象的なデザインエレメントが、フロントフェンダーの「槍型」モータースポーツグラフィックス、すなわち槍の形の上質なホワイトデカールです。槍は、モータースポーツの黎明期を思い起こさせます。当時、レーシングカーの塗装は、クラッシュ後に傷跡を隠すためのものでした。後に、槍は一種のウォーペイント(出陣化粧)として使用され、モータースポーツにおける最初のデザインエレメントのひとつになりました。

タルガヘリテージエディションの両サイドにも、歴史的なモータースポーツグラフィックスが施されています。希望すれば、ゼッケンナンバーによってスポーティな外観を補完することもできます。この数字は、0から99までの中から各自で選択することができます。

コーデュロイ：特別な感触のファブリック

コーデュロイは柔らかな畝(うね)ある織物で、すでに1952年からポルシェ356のシートセンターパネルを飾るために使用されてきました。柔らかくエレガントなコーデュロイは、時代の精神と1950年代のファッションを象徴でした。また、シートの換気を向上させることに加え、滑りにくいことから安全性も高いために、車の品質を証明するものでもありました。

「コーデュロイ、ペピータ、パシャ、そしてタータン。これらはいずれも歴史的なファブリックとパターンであり、私たちが新しいヘリテージデザインモデルのインテリアに復活させようとしているものです」と、カラー/トリムの責任者であるフォルカー・ミュラーは伝えます。「ファブリックと手触りはとても重要で、子供時代、過ぎ去りし日々の過去のポルシェ車の思い出を呼び起こします」と、ミュラーは語ります。「古いファブリックとパターンを研究してテストすることは格別に刺激的でした。その次に私たちは、現在の安全性と快適性の要件を満たすために素材を再解釈して生産させました」と、カラー/トリムデザイナーのシュテファニー・クライバーマーは説明します。

911タルガ4Sヘリテージデザインエディションでは、アタカマベージュのコーデュロイが、シートとドアパネルにおいてそのスタイルを定義するエレメントとして採用されています。「しかし、オリジナルのファブリックにはウールがかなり含まれていたため、もはや現代の要件を満たしませんでした」と、フォルカー・ミュラーは述べています。その代替として用いられた繊維が、よりシャープな外観をもたらしました。

コーデュロイは、織られた生地には2つ目の縦糸または横糸を挿入したものです。このループ状に織り込まれた糸がパイルになります。すべての種類のコーデュロイは縦の畝を特徴とし、その間隔と本数はさまざまです。

中欧では、コーデュロイは一般にマンチェスターとしても知られています。最初の織機は、18世紀末にイギリス北西部のこの町に設置されました。

ポルシェ911タルガ4Sヘリテージデザインエディションの詳細

伝説のフックスホイール

911タルガ4Sヘリテージデザインエディションは、ハイグロスブラック仕上げが施された専用デザインの20/21インチホイールを装着します。ワイドなスポークとリムフランジの表面は、ポリッシュ仕上げされることで、ブラックに塗られたリムとスポークのブラックの側面を背景にして際立ちます。ホイールは、翼またはクローバーの葉の形にデザインされ、1967モデルイヤーのポルシェ911Sに初めて使用された伝説のフックスホイールを思い起こさせます。

フックスホイール： クローバーの葉のデザインを取り入れた初の鍛造ホイール

当時、ポルシェは、このホイールを単に軽合金製ホイールと呼び、スポーツカーの標準装備に含めていました。アルミニウムホイールという呼び名は控えめですが、新しいポルシェ911Sにバネ下重量軽減のためにスタンダードモデルの911よりも軽いホイールを装着させるという論理的な考えを反映しています。このよりパワフルなバージョンの911の仕様では、ホイールの重量をスチール製のものよりも約3kg軽くすることが求められました。

これは従来のやり方で生産されていた鋳造アルミニウムホイールには解決できない課題でした。鋳造ホイールでは、複数の部品でホイールを作って荷重に耐えることができなかったのです。この矛盾を解決できたのは、ドイツのザウアーラント地方のマイナーツハーゲンにある軽合金鋳造会社「Otto Fuchs KG」の革新的な技術だけでした。同社は、軽量でありながらすべての要件を満たせるホイールを供給することができ、その目的のために新たな生産工程を導入しました。工程の中では1個の素材からブランクが鍛造される一方、外側から内側のフランジにかけてのリム全体は圧延で作られました。

使用されたALMgSi1アルミニウム合金は、97パーセントのアルミニウムにマグネシウム、シリコン、マンガ、チタニウム、およびその他の成分が添加されており、その製法は今でも有効です。

ホイールのオリジナルデザインは、1965年5月に作られ、先細のウェブを連結したものでした。しかし、フェルディナンド・アレクサンダー・ポルシェは、より調和のとれた外観を優先してホイールに手を加えました。会議の議事録には次のように書かれています。「当社の提案に対し、ポルシェ・ジュニア氏は、スタ

イルと視覚的な理由からハブとリムを結ぶ5本のウェブの形状を変更しました。当社のデザインは、生産中止となった市販車の輪郭にはよく適合していましたが、新型車においては、ポルシェ・ジュニア氏が開発した形状の方がより調和して見えます。」

ポルシェ クラシック：クラシックフックスホイールは今でも入手可能

911タルガ4Sヘリテージデザインエディションのホイールは、ポルシェエクスクルーシブマニュファクチャラーのパーツとしてすべての現行911モデルに用意されています。これに対し、F.A.ポルシェがデザインしたホイールは、ポルシェ クラシックの製品レンジに含まれており、歴史的なポルシェモデルにも対応できるように、ほぼすべての種類のクラシックフックスホイールが用意されています。

品質と安全性に関するポルシェの高い基準を満たすことが最優先であるため、ホイールは、ヴァイザッハのポルシェ開発センターで広範なテストを受けます。

ポルシェの純正スペアパーツに求められるこうした厳格なテスト要件の一例を挙げると、1980年代の「ポルシェ特別要求プログラム」から生まれたエンボス加工のポルシェ カラーcrest付きホイールリムは、クロスカットテストに見事に合格しました。

このテストでは、ホイールリムに基材にまで達する切り傷を付けて碁盤目を作り、その上に標準化された粘着テープを圧着させてから、あらかじめ決められた時間に特定の角度で引き剥がします。このテストは、表面の剥離や小さな剥がれがないことでポルシェ クラシックハブキャップの高い品質を実証するように考案されており、ホイールセンターが30年の耐用年数を備えていることを意味します。

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションの詳細

必要性が美徳になるとき： ポルシェタルガの車両コンセプト

ポルシェAGによる全く新しいタイプの車の発明となったタルガは、1960年代初頭に米国市場の重要性について行われた議論に対するポルシェの答えでした。デトロイトからダラスに至るまで、突如としてオープントップカーは危険と見なされました。事故の際の乗員保護が不十分だと言われ、コンバーチブルの未来には暗雲が立ち込めていました。

海外に出荷された356の大半はソフトトップを備えていたため、シュトゥットガルト-ツフェンハウゼンでは、この議論は当然ながら歓迎されませんでした。ポルシェは、販売部門がオープントップバージョンを熱烈に求めていたため、陽光が降り注ぐ米国で顧客を失うことを望みませんでした。つまりポルシェには新しい車が必要でした。それは視覚的に魅力的でありながら形状は機能的という一見矛盾する課題を乗り越えて、ポルシェのスタイルに沿ったスマートなソリューションを実現する車です。

再びモータースポーツがインスピレーションを提供します。オープントップのスポーツカーにロールオーバーを取り付けることは、レースを楽しむ顧客の間では以前から一般的な方法でした。秒とポジションの争いの中で、車が2回宙返りして終わることもあります。しかし、サーキットのために開発されたロールバーのデザインは特に魅力的には見えませんでした。さらにフェルディナンド・アレクサンダー（“ブッツィー”）ポルシェは、彼がデザインした流麗なファストバックである911のカブリオレバージョンにそれほど熱心ではなかったため、不格好なチューブ状のフレームは問題外でした。しかしステンレススチール製のバーは、スポーティーでエレガントな外見と十分なカリスマ性を備えた魅力的なフォルムを与えることが可能だと考えられました。ここで「安全なカブリオレ」の基本的なアイデアが生まれました。

1965年9月に大きな期待の中でフランクフルトモーターショーが開幕したとき、そのモデルにはすでに名前が付けられていました。アイコンックなカレラという名前がメキシコの有名なカレラ・パナメリカーナでのポルシェの早い成功を示していたように、ロールバーを備えた新しい911の名前も、モータースポーツを想起させるものでした。ル・マンかモンツァが当然の選択でしたが、どちらもすでに使われていました。

ポルシェは、シチリア島の有名な耐久レースであるタルガ・フローリオにおいて5年間で4度の優勝を飾っていました。少しの間、「タルガ・フローリ」が候補として議論されました。国内セールスマネージャーのハラルト・ワグナーは、「フローリ」と省略されることを懸念し、「いっそのこと『タルガ』と呼ぶのはどうか？」と提案して問題は解決しました。このようにして取り外し可能なセンターーフセクションを備えた車の総称が誕生します。

世界で最も壮観なサーキット：タルガ

タルガ・フローリオは、シチリア島のマドニエ山脈を通る公道を走るレースでした。1906年から1977年まで最高出力600PSのレーシングカーが轟音とともにヘアピンカーブを回り、絵のように美しい山村を通り抜けました。1978年以降はラリーとして続いています。ヴィンチェンツォ・フローリオ(以下を参照)によって考案されたオリジナルのサーキットは、当初はチェファルからチェルダ、カルタヴトゥーロ、カステリャーナ、ペトラリア、ジェラーチ、カステルブオーノまで続いていた。

しかし、長年にわたって、ビッグサーキット、ミディアムサーキット、スモールサーキット、シチリアンラップなどの代替ルートが生まれます。たとえば、ビッグサーキットは全長148km、標高差1,000m以上で、ドライバーとマシンにとってチャレンジングなコースでした。

1956年から1973年の間に、ポルシェはタルガ・フローリオで11回の優勝を飾りました。このロードレースは、ポルシェにスポーツカー世界選手権の初勝利をもたらします。1956年に、ポルシェ550Aスパイダーを駆るウンベルト・マリオーリは、灼熱の中で行われたこの1,000kmレースを制します。それは、ニュルブルクリンクにおける550Aのレースデビューからわずか11日後のことでした。タルガ・フローリオでのポルシェの歴史の詳細は、こちらをご覧ください。

賞が名前の由来：盾を意味するタルガ

フローリオ家はマルサラワイン、化学薬品、マグロの加工と出荷で莫大な富を築きます。創業者の孫のヴィンチェンツォ(1888-1958)は、会社の経営を兄のイグナツィオに譲らなければなりません。兄は、弟の気持ちを和らげるためにシチリア島で最初の車を与えます。まだ車よりも馬の方が速い時代でした。ヴィンチェンツォは、1906年からパレルモの山岳地帯の奥地でレースを組織し、州の道路やガソリンスタンドの建設を奨励します。レースの賞として彼は銀の盾(イタリア語で「タルガ」)を贈与しました。

ポルシェ911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションの詳細

ポルシェ クレストはどのようにして誕生したか

ポルシェ ヒストリック クレストが、911タルガ4S ヘリテージ デザイン エディションのホイールセンターとボンネット、さらにインテリアのヘッドレストを飾ります。大胆な尻尾を備えた馬が際立つこのディテールは、ヘリテージデザインパッケージとして現行の全ての911モデルに装着することができます。

このクレストの特徴は、オリジナル911(1964～1973)の時代に遡る力強いレッド-オレンジのカラーです。PORSCHEロゴには、ゴールドのベースカラーと太い文字が使用され、凹状の背景にStuttgartの文字がエンボス加工されています。馬は特に力強く、たくましい肩と大胆な尻尾を備えます。

Porsche Heritageバッジ：信頼の証であった初期デザインへの賛辞

リアのエンジンカバーグリルには、Porsche Heritageバッジが取り付けられています。そのデザインとレタリングは、ポルシェ356時代の伝説の100,000kmバッジを彷彿とさせます。このバッジは1950年代半ばに、オリジナルエンジンで100,000kmの距離を走破した全てのドライバーに与えられました。

ポルシェクレストの歴史。馬力を重視

ポルシェロゴは、1948年のブランドの最初の車にすでに使用されていましたが、ポルシェクレストが作成されたのは1952年になってからでした。

1951年3月、ポルシェは、ドイツ・アートアカデミーのコンペティションを行いました。会社のロゴを作成するために1,000ドイツ・マルクを惜しみなく提供しますが、経営者の期待に応えるデザインはありませんでした。1951年の終わり頃、フェリー・ポルシェがニューヨークを訪れたときに、米国の輸入業者のマックス・ホフマンからロゴを要求され、会社内でロゴの作成が開始されます。

1936年にフォルクスワーゲンのロゴをすでにデザインしていた才能豊かなデザイナーのフランツ・クサーヴァー・ライムシュピースが、1952年の初めに素晴らしいクレストを作成します。そのクレストは、金の盾の輪郭の中にシュトゥットガルトの紋章から採用した跳ね馬が描かれ、会社のルーツを象徴しながら製品の品質とダイナミクスを説明していました。跳ね馬の上のStuttgartの名前とともに、ポルシェの故

郷への明らかなコミットメントが示されており、周囲のレッドとブラックの州のカラーと様式化された枝角は、ヴェルテンベルク-ホーエンツォレルンの伝統的な紋章から採用されていました。PORSCHEロゴのアーチが最後にデザイン全体を覆います。

ドイツ特許庁への登録後、ポルシェクレストは1952年の終わりにホーンスイッチに最初に取り付けられ、その後1954年11月に、ポルシェ356スピードスターの特徴的なボンネットハンドルに組み込まれます。1959年にはハブキャップを飾り、それ以降全てのポルシェ車がボンネットにこの品質シールを備えています。

ところで、著作権で保護されたポルシェクレストは、世界で最も有名な商標のひとつになりました。このクレストはポルシェAGの事前の許可を得た場合のみ、商業的に使用することができます。

ポルシェクラシッククレスト：品質を証明したオリジナルデザインを忠実に再現

幅広いヒストリックモデルのためのポルシェクラシックから入手可能なオリジナルのポルシェクレストは、当初の図面に従い専用工具で製造されています。当時と同様に金メッキが施され、手作業でカラーとエナメルが塗られています。今日のクレストとは異なり、当時のPORSCHEロゴはエンボス加工のみで、ブラック塗装はありませんでした。また、レッドは、ヴェルテンベルク-ホーエンツォレルンの州のカラーと同様のオレンジに近い色でした。

高い品質基準を満たすため、クラシックポルシェクレストは新たに販売するにあたってヴァイザハのポルシェ研究開発センターで実施された気候サイクルテストを含む広範なテストを受けています。

ポルシェクレストは、長年にわたって慎重なデザイン変更を経てきました。ポルシェクラシックから入手可能なクレストは、次のように区別されます。

- ポルシェ356は1954年から、911は1964年からサイズが異なります。デザインの詳細については、P1をご覧ください。
- 1974年以降、PORSCHEロゴはゴールドで、凹状の背景にStuttgartの文字がエンボス加工され、ポルシェクレストはレッドの輝きを放ちます。

- 1994年以降、PORSCHEロゴはスリムなブラックの文字が特徴で、Stuttgartの文字は凹状です。レッドに輝くポルシェクレストの馬は優雅になっています。

ゴールドカラーのロゴ：全てのヘリテージデザインモデルの際立つ特徴

リアとタルガバーのゴールドカラーのロゴも、歴史的なデザインを想起させます。初期のポルシェモデルにはシルバーカラーのロゴが付けられていましたが、1950年代半ば以降はゴールドカラーのリアのロゴが高級感のある外観を生み出しました。

1965年のポルシェ912と1968年のポルシェ911Tの導入により、ゴールドカラーのロゴは徐々にシルバーおよびブラックアルマイトのレタリングに取って代わりました。

しかし、将来の全てのヘリテージデザインモデルを装飾する特徴的な装備として、ゴールドカラーのロゴが復活されています。

現代スポーツカーの歴史の一片

ポルシェヘリテージデザイン戦略：クラシックなデザインエレメントを再解釈

ポルシェエクスクルーシブマニュファクチャーは、デザイン部門の「スタイル ポルシェ」と一緒に類まれなコンセプトに取り組んでいます。両者は、ヘリテージデザイン戦略の一環として、1950年代から1980年代にかけてのポルシェ車に由来する象徴的なエレメントを用いて限定生産の911モデルを再解釈しています。最先端のスポーツカー技術を備えるこれらのスペシャルモデルは、「ライフスタイル」の側面を取り入れ、ポルシェの製品戦略の枠内で歴史を参考にしながら感情に強く訴えるコンセプトを表現しています。

ポルシェが4月中旬にニューヨークオートショーで披露した911スピードスターのヘリテージデザインパッケージ装備車は、こうした「ライフスタイル」車両のデザインの見通しを初めて示しました。さらに来年には、一定の間隔で台数限定のスペシャルモデルが追加される予定です。上記の年代から選ばれたエレメントは、「ヘリテージデザインパッケージ」の一部としてそのほかの911モデルにも用意されます。

「私たちにとって、ブランドの価値を未来に伝えることはきわめて重要です。ヘリテージデザインモデルは、技術革新が注目される現代のハイブリッドおよび電気自動車にもあえて追加されます」と、ポルシェAGのポルシェエクスクルーシブマニュファクチャーにおける特別仕様車の責任者、ボリス・アペンブリンクは語ります。「ポルシェは、デザインとスタリングに関して創業当時からベンチマークを設定しました。現在、さまざまな時代の車両が、デザインアイコンになっています。私たちは、これらのアイコン的な外観を復活させることで、ポルシェが電動化の時代においても自らのルーツに忠実であることを証明します」と、スタイル ポルシェのインテリアデザインディレクターのイヴォ・ヴァン・フルテンは付け加えます。

ヘリテージデザインモデルは、特別なカラーと素材に注目を集めさせます。特別な塗装とカラーリングに加えて、スペシャルモデルのアイコン的な外観を特徴としています。「古いカラーと装備カード、ミュージアム車両、該当する時代のデザインエレメントなど、私たちは、これらすべてから着想を得て過去のデザイン言語を再解釈しました」と、ヴァン・フルテンは説明します。インテリアの布地は、この過程にお

いてきわめて重要な役割を果たしました。コーデュロイ、ペピータパターン、パシャパターン、またはタータンといったスタイルを決定づけるエレメントがデザインし直され、包括的なテストを受け、スペシャルモデルにふさわしい最先端の素材特性で生産されました。

「特定のカラースキーム、感触、またはパターンによって蘇る個々の記憶。これは、ファッションやインテリアデザインにおいても見られるトレンドで、私たちのアプローチの基本理念を構成しています」とヴァン・フルテンは付け加えます。伝統と革新では逆になっていることがいくつかあり、そのひとつの例が、ボンネットの中央に配置される予定です。来年に公開される最初のスペシャルモデルには、1960年代にさかのぼる伝統的なポルシェロゴがあしらわれます。

ポルシェデザインは、ヘリテージデザイン車両のオーナー専用におそろいの腕時計も開発しています。911のデザイナーでありポルシェ デザインの創設者であるフェルディナンド・アレクサンダー・ポルシェ博士の精神に忠実に、象徴的なデザインが現代に蘇ります。「チタニウムのさまざまな加工方法と、それにふさわしい個性的なポルシェ デザインらしいクロノグラフ機能が、このシリーズの特徴です。さらにペピータやタータンなどの特別に解釈されたパターンを組み合わせることで、ブランドの歴史に敬意を払う唯一無二の腕時計ができあがります」と、ポルシェ デザイン タイムピースのジェネラルマネージャー、ゲルハルト J. ノヴァク)は述べています。